進捗報告書（資金分配団体）

● 提　出　日　：　２０２２年１１月３０日
● 事　業　名　：　中核的災害支援ネットワーク構築事業
● 資金分配団体　：　全国災害ボランティア支援団体ネットワーク

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
1-1. ネットワーク参加団体同士の顔の見える関係が構築されているか。（関係性を作る機会がある）	支援関係者の集まる場の回数。（フォーラム、定例会、平時からの情報共有会議など）	都道府県ごとに、毎月１回以上（被災者ニーズに合う多様な支援団体の集まる機会が定期的にある）	２０２２年３月	◆北の国災害サポートチーム 毎月１回以上開催。 【①三者連携】 ①-1.コア会議 ・5/24 北海道社協と北の国災害サポートチームの２者会議。道社協からは地域福祉部地域福祉課の坂本氏、一戸氏が参加。 ・5/26 北海道庁と北の国災害サポートチームの２者会議。道庁からは保健福祉部福祉局　地域福祉課　地域福祉推進係の池田氏と他２名。 上記２会議共に、北の国災害サポートチームからは代表の篠原氏、定森氏、本田氏が参加。	

				①-2.他、行政機関等との会議 ・**北海道ＮＰＯファンド**と災害に備えた定期ミーティングを実施。（この定期ミーティングが、北海道フォーラム第１部のセッションに展開しています） ・**協同組合ネット北海道**との連携に向けた協議の実施。このネットワークは農協、漁協など１８の団体で構成。 ・5/22 **北海道青年会議所**と連携に向けた協議を実施。青年会議所のイベントに防災・減災に関するブース出展をされた。 ・7/22 **北海道生団連**の発足会に参加し、北サポの活動について説明。 ・**コープさっぽろ**と災害時の取り組みに関するシミュレーションを１０月８日に実施予定。 ①-3.市町村域 ・9/16、１７ 室蘭市 「西胆振地域防災を考える市民フォーラム～有珠山が噴火したらどうしますか～」 室蘭にて北サポ幹事団体が主催。 ・9/23　釧路市 「ひがし北海道防災スクール２０２２ｉｎ釧路」 北サポの幹事団体「ひがし北海道市民防災サポート」が主催、北サポは協力団体として参加。 ・釧路市では、下半期にも災害支援の関係者との意見交換会等も企画されている。昨年のこの会では、行政から津波のハザードマップの説明があり、同市社協の参加もあり、顔の見える関係性の構築を進められている。 ①-4.災害ボランティア組織連携会議 ・２０２２年度も下半期（１０～１２月）に開催され、北の国災害サポートチームも参画。 ①-5.災害ボランティアネットワーク会議 ・年１回実施。７月に開催。	

				・１４振興局ごとに実施される災害ボランティアコーディネーター養成資質向上研修について道社協との打合せを定期的に実施されている。 【② ネットワークの連携促進】 ②-1. 北の国災害サポートチーム幹事会 ・毎月開催 幹事団体１０団体が集まり、ネットワークの活動に関する協議と情報共有を行っている。 ②-2. 北の国会議 （胆振東部地震から続く情報共有会議） ・２０２２年度上半期は未実施。 【③ 研修会、訓練、フォーラム】 ・6/18、１９ 技術系研修会を石狩市で企業（重機レンタル会社）と協働で開催。 ・7/23 「これまでの大規模自然災害から考える現在の被災者支援制度 in 北海道」へ登壇。胆振東部地震や他地域への被災者支援を通じて、生活再建をはじめとする制度への提言を行った。 ・北海道フォーラム：10/24 に開催予定。 ・技術系研修会：10/7（旭川）、10/15（函館）に開催予定。 ・下半期は１～３月にオンライン研修会を開催予定。 テーマは今後協議の上決定されていく。 ◆いわて連携復興センター ①【三者連携】 ①-1.コア会議 毎月１回３者（県、県社協、いわて NPO 災害支援ネットワーク）による「岩手わんこミーティング」を開催し、情報共有を図ることで、県・県社協への働きかけを行っている。	

				①-2.他、行政機関等との会議 ・8/24 広域情報共有会議（岩手わんこ会議）開催 ・9/3 東北青年フォーラムに参加 ①-3.市町村域 ・岩泉町：6/30 岩泉町防災ボランティア関連団体連携会議参加 ・北上市：9/4 北上市総合防災訓練に参加し、情報展示ブースで情報を発信 ・八幡平市：9/10 令和 4 年度八幡平市災害ボランティア講習会にスタッフが講師として参加 ・広域：県社協「10 広域でのネットワーク連絡会議」に参加。いわて連携復興センターによる近年の災害対応の状況等について説明するなど、市町村域での連携体制構築の推進を図っている。 7/26 県央、7/27 北上、9/6 久慈、9/12 胆江、9/29 二戸、9/30 釜石、 10/4 気仙・11/5 宮古（予定）、 花巻・遠野、一関（未定） ・広域：県社協「災害ボランティアセンター設置・運営に係る研修」に参加。広域での三者連携体制の構築を進めている。 8/27 県央、9/26 北上、 10/7 久慈・10/14 釜石・10/25 胆江・10/29 気仙・ 11/1 二戸・11/5 宮古・11/23 一関（予定） 花巻・遠野（未定） 【② ネットワークの連携促進】 ・岩手県「岩手県防災ボランティア支援ネットワーク」に参加 【③ 研修会、訓練、フォーラム】 ・8/31　浸水家屋の対応講習会	

				・9/10 令和 4 年度八幡平市災害ボランティア講習会を開催 ・10/29　岩手県総合防災訓練に参加予定 ・11/16 岩手県「令和 4 年度岩手県防災ボランティア支援ネットワーク研修会」に参加し、三者連携推進のための事例発表を行う予定 ◆岡山ＮＰＯセンター ①【三者連携】 ①-1.コア会議 岡山県主催の交流セミナーや災害支援ネットワークおかやまの情報共有会議を通じて、情報共有や意見交換を行っている。 ①-2.市町村域 ・総社市： 災害ボランティアセンター運営者研修開催への協力を通じて、情報共有を行っている。 ・倉敷市： 災害廃棄物処理の研修プログラム作成への協力等を通じて、連携を進めている。 ・新見市、久米南町、赤磐市：「交流セミナー」（岡山県との協働事業）を通じて、災害に備えた平時の取り組みを連携して実施している。 ・玉野市： 防災担当を担っている教育委員会が生涯学習の一環として実施する災害支援の訓練を連携して実施する。この訓練には行政の福祉、協働、危機管理の部署も関わる。 ・津山市： 危機管理室やＮＰＯ等との連携推進の窓口になる協働推進室と、災害時に連携に関して協議を進めている。 【② ネットワークの連携促進】 ②-1. 災害支援ネットワークおかやま会議 月１回で開催	

				4/7、6/2、7/7、8/4、9/1、9/26 ②-2. 災害支援ネットワークおかやま評議会・合同研修会は、下半期に開催予定 ②-3. 交流セミナーは、下半期に開催予定。 【③ 研修会、訓練、フォーラム】 ・8/2「災害に備えるワークショップ」 南海トラフ地震の被害想定と防災計画を知り、支援の「もれ・むら」の無い支援ネットワークを考えることも目的に実施。行政、弁護士から地域で想定される被害状況についての共有があった。（※休眠事業の活動ではないが、岡山ＮＰＯセンターン参画が、アウトカムへ貢献している） ・9/26「これまでの大規模自然災害から考える現在の被災者支援制度 in 岡山」 西日本豪雨や他地域への被災者支援を通じて、生活再建をはじめとする制度への提言を行った。	
1-2. 都道府県内の多様な団体がネットワークに参加している。	被災者ニーズに合う多様な団体の参加	被災者ニーズに合う多様な団体参加している。		◆北の国災害サポートチーム ・幹事団体１０，協力団体３６。 フォーラムや研修会を通じてネットワークの参加、協力団体は増えている。支援団体は北サポのアウトカム１でリスト化し、各団体の所在地もマッピングされ可視化にも努められている。 また、被災者ニーズに合う多様な団体という定性的な視点においては、成果物である記録紙内にも記載があるとおり、北海道の地域特性を踏まえて必要とされる支援の分野を５つの大項目、２６の分野を特定し、関係者との共有を図られている。 ◆いわて連携復興センター	

				・会員団体 10、個人会員 2 ・休眠預金事業の活用により、いわて NPO 災害支援ネットワーク会員は 3 会員増加。 ・平時からリソースの可視化として、いわて NPO 災害支援ネットワークと連携協力が図れる団体をリスト化している。 ◆岡山ＮＰＯセンター ・西日本豪雨や他地域への被災者支援を通じて、ニーズや課題が多い分野を特定し、課題解決を目的にした４つの部会（避難所、物資、在宅避難者、被災家屋）を設けている。	
1-3. ネットワーク参加団体が相互に災害時の役割を理解している （都道府県域における三者の連携体制が明確になっている）	(1)ネットワーク構成組織の名簿 （２）ネットワークの事務局の設置 （３）ネットワークの規約	（１）三者が合意した役割が記載された名簿が作成されている。 （２）事務局もしくは事務局機能を担う組織が明確になっている。 （３）ネットワークに規約もしくは指針がある。		◆北の国災害サポートチーム （１）名簿作成をしている会議 ・北の国災害サポートチーム幹事会 １０団体、協力会員：36（中間評価時の協力会員は２９団体） ・北の国会議（胆振東部地震情報共有会議）　約１００団体の参加。 Ｅｘｃｅｌで名簿を作成し、グーグルマップへの落とし込みも実施中。 ・全道フォーラム、研修会 ・災害ボランティア組織連携会議 ・北海道災害ボランティアネットワーク会議（機関のネットワーク図もある） （２）事務局が明確になっている会議 ・災害ボランティア組織連携会議：北海道社協	

				・北海道災害ボランティアネットワーク会議：北海道社協 （3）ネットワークに規約もしくは指針がある。 ・北の国災害サポートチーム ◆いわて連携復興センター (1)名簿作成をしている会議 ・いわて NPO 災害支援ネットワーク （2）事務局が明確になっている会議 ・岩手県防災ボランティア支援ネットワーク連絡会議：岩手県 ・いわて NPO 災害支援ネットワーク：いわて連携復興センター ・岩手わんこミーティング：いわて連携復興センター ・東北 6 県わいわい防災協議会：いわて連携復興センター （3）ネットワークに規約もしくは指針がある。 ・いわて NPO 災害支援ネットワークに明文化された規約はないものの、専用のウェブサイト（https://iwate-inds.jp/about/history/）には、災害時や平時に行う活動や、構成団体の得意な分野を活かした幅広い支援など、詳細が掲載されており、規約と同様なものと理解している。 ・また、岩手県「岩手県防災ボランティア活動推進指針」に位置付けられている。	

				◆岡山ＮＰＯセンター (1)名簿作成をしている会議 ・災害支援ネットワークおかやま 加盟団体の支援分野を示したデータベースがある. （２）事務局が明確になっている会議 ・災害支援ネットワークおかやま：岡山ＮＰＯセンター。 ・岡山市災害ボランティアネットワーク （３）ネットワークに規約もしくは指針がある。 ・災害支援ネットワークおかやま	

2-1. ネットワークとしての災害時の対応が検討されている。	ネットワーク自体の検証を協議する機会	都道府県毎に毎月1回以上。		◆北の国災害サポートチーム ネットワークの検証について行政、社協との三者による協議は未だ行われていないが、他の会議や研修会を通じて、今後に向けた働きかけは行われている。ただしＮＰＯ等との検証は実施され、改善に向けた取り組みも進められている。（2-3に記載） ◆いわて連携復興センター ・ネットワークの検証について、県、県社協との三者による協議は行われてはいないものの、月1回の「岩手わんこミーティング」により、県・県社協との協議の場を確保している。 ・9/28 一戸町にて8月の大雨災害への支援に係る振返り会を開催。一戸町保健福祉部、一戸社協、九戸社協、県社協、いわて NPO 災害支援ネットワーク、九戸村総務課・保健福祉課、県地域福祉課、県復興くらし再建課が参加。災害対応の課題と今後の対応について意見出しと協議を行った。 ◆岡山ＮＰＯセンター 岡山県や県内の複数の市町村が評議員として参加している災害支援ネットワークおかやまの評議会等で、ネットワークについての話し合いは行われている。	
2-2. ネットワークの具体的な機能が、地域特性を考慮した内容になっている。	地域特性を踏まえたネットワーク機能の内容	地域特性が考慮された具体的な機能が明記されている。		◆北の国災害サポートチーム ・北海道の地域特性を踏まえてネットワークに必要な内容が北の国災害サポートチームのミッションとして明記されている。https://kitasapo.net/about/。三者それぞれの役割や機能につて話し合う機会は今後設けていくことを検討している。	

				◆いわて連携復興センター ・岩手県の地域特性を踏まえてネットワークに必要な内容が、いわて NPO 災害支援ネットワークができることとして記載されている。 https://iwate-inds.jp/about/history/ ・「岩手県防災ボランティア活動推進指針」の改定に合わせて 3 者連携が明記。指針内に「いわて NPO 災害支援ネットワーク」が位置づけられている。 ◆岡山ＮＰＯセンター ・岡山県の地域特性を踏まえて、岡山県や岡山市などの複数の市町が評議員として参画している災害支援ネットワークおかやまの目的、事業の他に、「ネットワークとしての１２の役割」として７つの項目ごとに記載されている。 https://saigainetokayama.org/	
2-3. ネットワーク自体を検証する訓練・研修が計画通りに実施されている。	①ネットワーク自体を検証する目的の訓練・研修会の回数 ②訓練・研修の内容	①年１回以上の訓練・研修会の実施。 ②訓練・研修にネットワークの改善に必要な内容が網羅されている。		◆北の国災害サポートチーム ・4/11 幹事団体（１０組織）内で、ネットワークの検証を実施。幹事団体内で意見交換を行い、目指すネットワークのイメージの共有、今後想定される運営の規模、連携を促進するために新たに取り組む活動等についての話合いを行った。この場で挙げられた「協力会員との情報共有を進めた方が良いのでは」という意見は、１０月の北海道フォーラム開催後に活動として実施することになっている。 ・9/16 災害リスクの高い地域の一つである室蘭で２０２２年７月に設立された「室蘭災害ボランティアネットワーク」で、胆振地域防災を考える市民フォーラムを開催し、関係者間での地域特性の共有を図られている。	

				◆いわて連携復興センター ・ネットワークを検証する訓練・研修は行っていないものの、7/27 には、いわて NPO 災害支援ネットワークの構成団体と、有事に備えた意見交換を実施している。 ◆岡山ＮＰＯセンター ・４つの部会を中心に、担い手や社会資源を含めて県内の被災者支援の過不足の把握と、必要とされる役割や機能について話し合を行い、災害の外部の受け入れの準備を進めている。同時に、次の災害に備えた平時の取り組みとして、実際に避難所になる施設において炊き出しの研修会も行っている。	
2-4. ネットワークの検証が行われ、必要に応じた改善がなされている。	訓練・研修から得られた検証結果による改善点。	ネットワークの改善点が継続的に実施されている。		◆北の国災害サポートチーム ・アウトプット 2 - 3 で記載した話し合いの場で挙げられた「協力会員との情報共有を進めた方が良いのでは」という意見は、１０月の北海道フォーラム開催後に活動として実施することになっている。 ◆いわて連携復興センター ・継続的な取組はないものの、令和４年８月３日からの大雨の災害対応を踏まえ、今後のネットワークのあり方等について、事務局内で検討が進められている。 ◆岡山ＮＰＯセンター ・アウトプット 2 - 3 で記載した話し合いの場で挙げられた内容に向けて、随時取り組まれている。	

3-1. 地域に必要な専門性が特定され、支援の担い手の支援能力を強化するための訓練・研修が立てられている。	①都道府県内の支援の担い手の地域分布と分野のリスト。 ②必要とされる支援の担い手の育成するための訓練・研修の計画。	①支援のリソース（支援の担い手）のプロファイルが作成されている。 ②訓練・研修にネットワークの担い手の育成に必要な内容が網羅されている。		◆北の国災害サポートチーム ・北海道で必要とされる分野を特定し、その分野における支援の担い手を育成する研修・訓練、意見交換会、フォーラムを実施している。 ・6/18、１９ 技術系研修会を石狩市で開催。重機レンタル会社と協働で実施。 ・7/23 「これまでの大規模自然災害から考える現在の被災者支援制度 in 北海道」へ登壇。胆振東部地震や他地域への被災者支援を通じて、生活再建をはじめとする制度への提言を行った。（10/7、１５技術系研修会、10/２４北海道フォーラムを開催予定） ◆いわて連携復興センター ・8/31 豪雨災害で被災した地域で専門的な知識とノウハウが地域に残るように「浸水家屋の対応講習会」を開催。 ・9/10 水害経験が少ない岩手県内陸部の市町村で、近年発生が多い水害への備えと対応についての講座として、八幡平市社協と協働で「令和 4 年度八幡平市災害ボランティア講習会」を実施。 ・9/28 台風の接近に伴い、緊急勉強会「災害支援制度を学ぶ 2022」を開催するとともに、参加者の注意喚起を実施。 ◆岡山ＮＰＯセンター ・6/１８ 物資部会 「”はこぶ”でたすける」物資倉庫シミュレーション ・7/30 避難所部会 「災害時の炊き出し支援に関する実践研修」 （下半期に複数の研修会、ワークショップ等を実施予定）	

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
実行団体に必要なサポートの内容を把握している。	JVOAD が聞取りの内容	JVOAD が聞き取った内容に対応するサポートの提案が実行団体にできている	２０２２年３月	◆北の国災害サポートチーム ・道庁との関係構築に難しさがあることに関しての相談受け、ＪＶＯＡＤからは他地域での行政と災害中間支援組織についての事例や、内閣府による三者連携を進めることを目的にした研修会（中核人材育成研修会）などを紹介した。 ・ネットワーク団体の構成のあり方として、 他地域でのネットワークの体制づくりの紹介を行うと同時に、被災者支援コーディネーションの仕組みづくりに関しての協議を行いネットワークに求められる機能や役割を見いだした。 ◆いわて連携復興センター ・岩手県との連携推進について相談を受け、他地域での取組について、具体的な事例を紹介した ・７月から９月にかけて、ジョンソンエンドジョンソン様からの企業プロボノ支援が円滑に実施されるよう支援を行った。 ・このようなジョンソンエンドジョンソン様の成果を活かし、新たな企業プロボノ支援につながるよう、８月からＮＥＣ様との調整を行っている。 ・9/25、9/28 台風などの広域災害に備え、被災	2

				者支援が円滑に行えるように開催された緊急勉強会に協力し、連携体制構築に寄与した。 ◆岡山ＮＰＯセンター ・休眠預金事業で作成した成果物に関して、事業終了後の運営主体や運用等について協議を進めている。 ・広域災害に備えた他地域との連携についてＪＶＯＡＤでも行っている取り組みを共有し、効率的に進めている。	
各地の災害時の取り組み事例が集約されている。	災害支援の事例	災害支援のネットワークが構築されている地域の取り組み事例が集約されている。	同上	まずは、３実行団体による取り組み事例を、ネットワークに必要な要素ごとに事例をまとめている。追って、３実行団体以外の地域における取り組み事例も整理して、可視化を進めていく。	2

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
状況をプルダウンより選択してください▼
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☐変更なし ☑短期アウトカムの内容 ☐短期アウトカムの表現 ☐短期アウトカムの指標 ☐アウトカムの目標値
6.(任意)非資金的支援の活動に関する報告

・実行団体に必要なサポートの内容を把握している
３実行団体から必要とされるサポートは、今後横展開していく中でも必要とされる内容であるため、質問や要望に対して迅速に対応できるように内容をまとめる。
・各地の災害時の取り組み事例が集約されている。
現時点では３実行団体による取り組み事例を、ネットワークに必要な要素ごとに事例をまとめている。追って、３実行団体以外の地域における取り組み事例も整理して、可視化を進めていく。
また、案として書き出した要素についても、３実行団体と他地域の災害中間支援組織、ＪＶＯＡＤ運営委員会にヒアリングを行い、見直しを行っていく。

③　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　　☐広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 2.広報制作物等 3.報告書等 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） ・愛媛県「令和４年度地域支え合い・災害支援ネットワーク第１回全県会議」において、休眠預金活用事業の取り組みを紹介。